

石油化学プラントのCO₂排出ゼロに向けた動き

◆INEOSは、石油化学プラントのCO₂排出量をゼロにするための投資を行う

INEOSは、2021年9月、イギリスのGrangemouthにある石油精製と石油化学工場のCO₂排出量を45年までにゼロに削減するために、10億ポンドを超える追加投資を行うと発表した。新たな投資により、CO₂の回収・貯留システムを導入することによって年間少なくとも15万トンのCO₂排出量を削減する。

INEOSは、Grangemouthにおける温室効果ガス削減プロジェクトに5億ポンド以上を支出することをすでに公表していた。この計画は、23年後半に完成の予定である。ゼロエミッションのマイルストーンとして、30年までにサイト全体で60%以上の排出削減を実現するという目標を置いている。

◆Dowは、世界初のCO₂排出量ゼロの統合型エチレンクラッカー建設計画を発表

21年10月、Dowは、カナダのFort Saskatchewanにある既存の石油化学生産設備を改修して、CO₂排出量をゼロにすることを発表した。年間約10億ドルの設備投資を段階的に実施し、世界初となるCO₂排出量ゼロの統合型エチレンクラッカーおよび誘導体工場を建設する計画である。

30年までに段階的に約180万トンの生産能力を追加し、約320万トンのポリエチレンおよびエチレン誘導体を生産、供給できるとしている。

◆三菱ケミカルHDもカーボンニュートラル実現に向けた方針を発表した

三菱ケミカルホールディングスが、50年にカーボンニュートラルを実現するための方針を21年10月に発表した。製造プロセスの合理化や、自家発電用燃料を天然ガスに転換することにより、30年度までにグローバルにおけるGHG排出量を2019年度比で29%削減する。

次いで、バイオマス原料の活用、CO₂の原料化、植林によるカーボンオフセットを含め、50年までにGHG排出量を実質ゼロとする計画である。30年までに約1,000億円の設備投資を行うとしている。さらに、22年度上期より社内炭素価格制度を導入することにしたと発表した。

【松村晴雄】